

2026コレクション展Ⅱ
小企画—美術の中のかたち
手で見る造形

青木野枝

動体



2026 Collection Exhibition II
Form in Art | Perceiving with the Hand

Aoki Noe
dotai / Moving Within

2026.10.20^{tu} –
2027. 2.23^{tu}

2026コレクション展Ⅱ 小企画
美術の中のかたち—手で見る造形

青木野枝 動体

2026年10月20日(火) – 2027年2月23日(火・祝)
兵庫県立美術館 3階展示室2

「美術の中のかたち—手で見る造形」展は、作品に触れて鑑賞することができる展覧会です。平成元（1989）年から続くこのシリーズは、目の見えない人、見えにくい人に美術館で作品を鑑賞する機会を広げることを目的として始まり、同時に、視覚中心になりがちな鑑賞のあり方そのものを問い直す場ともなってきました。36回目となる今回は、鉄を素材に制作を行う彫刻家・青木野枝（1958-）を出展作家に迎えて開催します。

青木の彫刻は、工業用の鉄板から溶断したパーツを溶接して組み上げるシンプルな工程によってつくられます。水や光、大気中の粒子といった、目には映らないけれどもわたしたちのまわりに確かに存在し、絶えず流れ、変化し続けるものに関心を向ける青木にとって、素材である鉄もまた不変のものではありません。溶断によって赤く溶けていく鉄は、冷える過程で内部に光を宿します。それらをつなぎあわせることで生まれる彫刻は、表面の硬質さとはうらはらに、軽やかに空間へと広がり、生命や自然のなかにある微細な動きの気配を感じさせます。

阪神・淡路大震災から30年を迎えた2025年、当館屋外4階「風のデッキ」に、青木の彫刻作品《Offering / Hyogo》が設置されました。海と山の間にあって、風が吹き抜け、光が移ろうその場所の真下に位置する3階展示室2を会場に、本展にあわせて制作された新作を展示します。

動かないと信じているものも本当は動いているのではないかと思います。

全てのものは動きを内部に持ってそこにある。

いま私は鉄やガラスという一時的に硬い物質で彫刻をつくっています。

そしてそれは熱で溶けたり流れたりするものでもあります。

私は硬い状態の鉄で動いている状態の彫刻をつくりたい。

それは、彫刻自体が動くのではなく動きを内部に持った彫刻です。

青木野枝

見どころ

- 1 本展では青木が当館の展示空間にあわせて制作した新作を展示します。置かれる場所との関係のなかで構想され、会期を終えると解体されていく青木の彫刻。その一時的な存在のあり方にも、変化し続ける世界を捉える作家の視点があらわれています。
- 2 溶断された鉄の輪郭は、ドローイングの線のように作家の身体の動きを刻んでいます。繰り返し切り出され、つなぎあわされた鉄のかたちに触れ、その重さや質感、作品が生み出す空間を身体で体感していただければ幸いです。
- 3 兵庫県立近代美術館時代から数えて36回目となる「美術の中のかたち—手で見る造形」展。これまで1階常設展示室4もしくは5を会場として開催してきましたが、今回は2025年に設置された青木の彫刻作品《Offering/Hyogo》の真下に位置する3階展示室2を初めて会場として使用します。



撮影：砺波周平

青木野枝（あおき・のえ）

1958年、東京都生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了。80年代より、工業用の鉄板をパーツに溶断し、溶接して組み上げるシンプルな作業を繰り返すことで完成する作品を制作。有機的かつ軽やかな立体作品で高い評価を得る。ワークショップや地域との協働にも積極的に取り組む。近年の展覧会に「ゴヤからピカソ、そして長崎へ 芸術家が見た戦争のすがた」（長崎県美術館、2025年）、「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」（東京都庭園美術館、2025年）、「青木野枝 光の柱」（市原湖畔美術館、千葉、2023年）など。2021年第71回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2026年9月16日より、千葉市美術館にて開催される「千葉開府900年記念特別展 月と星と—美術がつなぐとき」に参加。



青木野枝《Offering / Hyogo》2025年 兵庫県立美術館蔵（撮影：山本紉）

関連事業

アーティスト・トーク

講師 青木野枝

日時 2026年10月20日（火）14:00–15:00

会場 レクチャールーム、展示室（定員30名）

※当日先着順、参加無料（要観覧券）

ワークショップ

講師 青木野枝

日時 2027年1月17日（日）

※詳細は当館ウェブサイトにてお知らせします

基本情報

会期 2026年10月20日（火）－ 2027年2月23日（火・祝）

開館時間 10:00－18:00（入場は閉館の30分前まで）

休館日 月曜日 [ただし11月23日（月・祝）、2027年1月11日（月・祝）開館、11月24日（火）、2027年1月12日（火）は休館]
および12月28日（月）－2027年1月4日（月）の年末年始

観覧料	コレクション展II （全室共通）	当日	団体 （20名以上）	特別展との セット料金	コレクション展無料の日
	一般	550円	400円	300円	
	大学生	400円	300円	200円	
	高校生以下	無料	無料	無料	
	70歳以上	250円	200円	150円	
障害者手帳等をお持ちの方とその介助の方1名は無料 ※一般以外の料金には証明できるもののご提示が必要です					○公益財団法人伊藤文化財団の協賛による無料日 ・国際障害者デー 12月3日（木） ・ひょうご安全の日 1月17日（日） ・第2日曜日（自由に話せる観覧日） 11月8日（日）、12月13日（日）、2027年1月10日（日）、 2月14日（日） ○文化の日 11月3日（火・祝） ○関西文化の日 11月14日（土）、15日（日）

主催 兵庫県立美術館

協賛 公益財団法人伊藤文化財団、サンシティタワー神戸（株式会社ハーフ・センチュリー・モア）、
一般財団法人安藤忠雄文化財団

協力 認定NPO法人神戸アイライト協会、点訳ボランティアグループ連絡会（点V連）、ANOMALY

同時開催の展覧会

国立美術館 コレクション・ダイアローグ
松方幸次郎 × 山村徳太郎 蒐集のパッション
ーロダンを日本へ、具体を世界へ
10月10日（土）－12月27日（日）
チャンネル 17 黒川 岳
11月28日（土）－ 2027年1月31日（日）
Ando Gallery
当館 2F（入場無料）

横尾忠則現代美術館での同時開催

Curators in Panic 2 ～横尾忠則展 学芸員危機2髪？
9月19日（土）－12月27日（日）
横尾忠則のビフォー／アフター
2027年1月30日（土）－ 5月5日（水・祝）

取材についてのお問い合わせ

兵庫県立美術館
広報・営業担当 福田・高村・成松
TEL 078-262-0905(直通) FAX 078-262-0903
Email press@artm.pref.hyogo.jp

交通案内

阪神「岩屋駅（兵庫県立美術館前）」から徒歩約8分
JR神戸線「灘駅」南口から徒歩約10分
阪急神戸線「王子公園駅」西口から徒歩約20分
JR「三ノ宮駅」から神戸市バス（29、101系統）にて約15分、
「県立美術館前」下車すぐ
地下駐車場（乗用車80台収容・有料）
※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください
※団体バスでお越しの場合はバス待機所のご予約をお願いします



「美術の中のかたち一手で見る造形 青木野枝 動体」広報画像申込書

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、媒体情報をご記入の上、本紙をE-mailまたはFAXにてお送りください。

なお、申込の確認に数日かかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

[兵庫県立美術館 広報・営業担当]

E-mail: press@artm.pref.hyogo.jp / FAX: 078-262-0903

【画像使用に際しての注意事項】

- 「作家名」「作品名」「制作年」「所蔵先」など指定のキャプションを明記してください。
- 作品画像の加工（着色、トリミング、文字載せなど）はできません。
- 基本情報、画像使用の確認のため、原稿・ゲラの段階で「広報・営業担当」までお送りくださいますようお願いいたします。
- 掲載媒体を1～2部、もしくはURL、同録（DVD、CD）を「広報・営業担当」宛にお送りください。
- 画像使用は本展覧会の紹介用のみとさせていただきます（会期終了まで）。
- 再放送、転載など二次使用をされる場合には、改めて申請をお願いいたします。

□ 1 	□ 2  青木野枝《amorphous / 天王洲 I-V》2025年 (撮影：山本紉) ANOMALY(東京) 展示風景 ©Noe Aoki Courtesy of ANOMALY	□ 3  青木野枝《amorphous / 天王洲 I-V》2025年 (撮影：山本紉) ANOMALY(東京) 展示風景 ©Noe Aoki Courtesy of ANOMALY
□ 4  青木野枝《Offering / Hyogo》2025年 兵庫県立美術館蔵 (撮影：山本紉)	□ 5  撮影：砺波周平	

■貴媒体の情報をご記入ください

- 媒体名（番組・雑誌名等）：
- 媒体種：新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・WEB
その他（ ）
- 掲載・放送予定日：
- 参考URL：
- 原稿確認予定日：
- ※WEB掲載の場合、いずれかに○をつけてください
コピーガード対応 可 ・ 不可

■申請者の情報をご記入ください

- 貴社名：
- 所在地：〒
- ご担当者名：
- メールアドレス：
- 電話番号：

読者・視聴者プレゼント用招待券： 組 名分を希望
※最大5組10名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです

取材申込書

取材をご希望の方は下記にご記入のうえ、
取材希望日の3営業日前までに、メールまたはFAXにてお申し込みください。
メール：press@artm.pref.hyogo.jp F A X： 078-262-0903

お申込日 年 月 日

<< 取材内容 >>

希望日時	第1希望	年	月	日 (曜)	時	分	～	時	分
	第2希望	年	月	日 (曜)	時	分	～	時	分
	第3希望	年	月	日 (曜)	時	分	～	時	分
希望場所									
企画内容									
カメラ撮影	☐ あり (スチール 台 ムービー 台 三脚・脚立 台)								
	☐ なし								
取材人数	人								
取材時の代表者名									
媒体種別	☐ テレビ ☐ ラジオ ☐ 新聞 ☐ Web ☐ その他 ()								
媒体名									
掲載・放送予定日時	☐ 掲載	年	月	日 (曜)	時	分			
	☐ 放送	年	月	日 (曜)	時	分			

ご連絡先	担当者名	
	社名・部署名	
	住所	
	電話番号	
	FAX	
	E-Mail	

- * 企画内容によってはご要望に沿えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- * 作品の著作権保護や出展作品のクレジット確認等のため、展示風景や作品の画像使用にあたっては、紙面掲載、番組放送前に原稿を確認させていただいております。校正段階での原稿・映像等を事前に広報専用メールへご提出ください。
- * 掲載媒体を1～2部、もしくはURL、同録（DVD、CD）をお送りください。

〈取材についてのお問い合わせ〉

兵庫県立美術館 広報・営業担当 福田・高村・成松
〒651-0073神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

TEL : 078-262-0905 FAX : 078-262-0903 Mail : press@artm.pref.hyogo.jp